

調査報告書

- 1 とき：2011年4月9日
- 2 行先：名古屋港堀川水門上流の民間棧橋
- 3 参加者：山口清明議員及び政務調査補助員
- 4 内容の概要

- ・名古屋港の河口にある堀川の防潮水門が3.11津波で効果を発揮せず、浮き棧橋や停泊ボート・船舶に被害があった実態を調査



- ・民間棧橋Kを訪問し、聞き取り調査。浮き棧橋が津波の潮流に流されて周辺の工作物に当たって底部損傷で浸水し沈没。現在は岸まで寄せてヘドロの上に乗っている状態。調査時は干潮のため浮上していた。
- ・3月11日の夜8時過ぎに名管や海上保安庁に津波の潮流が早いので水門を閉めるよう要請。名管からはその後連絡もなし。時速30キロくらいの潮流が発生。満ちていくほうが早かった。満ち引きが早いテンポで繰り返されて、棧橋が左右に振られて損傷。つないであったボートにも被害。
- ・周辺でもKB棧橋4つが全滅、ボートも流され足り沈んだりした。SM棧橋も全滅に近い。その他MSなど、数箇所被害。今は仮の停泊地につないでいるが退去要請あり。
- ・名港管理組合は、水門調整はうまくやったというが、閉まるまでの潮流がどうであったかの説明は無く、水位の変化だけいっている（3・18調査）。被害調査をやっていない。津波の翌日に船で見て回っただけ。
- ・これでは水門の意味が無い。早く閉めると川があふれることを恐れたのではないかといわれている。
- ・その他、中川閘門と荒子川水門も現地調査。



・ 浮き桟橋の被害



右の桟橋が底部損傷で水没。岸に寄せてある。本来はタラップの先に右奥の桟橋がある。



タラップが接続する桟橋部分。左右に90度振られたためにH鋼が大きく損傷

桟橋の先が堀川水門。常時開放されている

・ 中川閘門

荒子川水門



常時閉鎖。2つセットでパナマ運河方式で水位を買えて船を通す

常時閉鎖。ポンプ排水。左の建物が排水機場。